

# 北広島町スキー教室安全指導ガイドライン

— 町内すべての学校教育活動の中に、安全文化の創造を —

平成28年12月  
北広島町スキー教室ガイドライン作成委員会

## 1 スキー教室の意義

学校教育でのスキー指導は、冬季における児童生徒に運動の機会の幅と運動量を増やすとともに、自然環境や雪上スポーツの文化、そして地元の産業としてのスノースポーツとの関わりにとって重要である。

北広島町の自然やスキー環境を持続、発展させていくためにも、小学校及び中学校の在学期間中にスキーの技能や知識を修得することは生涯スポーツの観点からも、また、国際的に親しまれているスノースポーツへの理解を深めることは、将来の北広島町の礎となるものである。

スキーの基礎的な技能の学習を基礎として、質の高い環境で経験を積ませることの意義は大きく、スキーの健全な発展のために、町全体で学校への協力と支援は欠かせない。その中で最も重要視しなければならないことは、安全性の確保である。スキー教室の計画・実施に当たり、事故や怪我から児童生徒を守ることを何よりも優先し、適切な指導と安全対策のために、以下のことを踏まえる。

## 2 スキー指導者としての安全管理事項

スキーに内在する危険についての理解を深め、全国スキー安全対策協議会が制定する「スキー場での行動規則」および「スノースポーツ安全基準」(<http://www.nikokyo.or.jp/safety-snow/>)の順守に努める。

### 【スキー教室前に実施しておく事項】

- ① スキー教室実施計画の作成と安全対策に関する事項を具体的に記載
- ② 児童生徒の事前の実態把握（スキー経験・技術、身体的特徴など）
- ③ 児童生徒への事前指導（予測される事故、用具の着脱、リフトの乗り降り、マナー）
- ④ 指導者の事前研修と情報の共有
- ⑤ スキー用具の安全点検（前圧値と解放値の確認：スキーレンタルとの連携）
- ⑥ スキー場管理者との事前の打ち合わせ（安全対策について）
- ⑦ 緊急時発生の連絡体制の確認（パトロールとの事前の打ち合わせ）
- ⑧ 学校と指導者との事前の打ち合わせ会
- ⑨ 安全性と効率が確保できる人数での班編成
- ⑩ 指導中の位置（場所）の確認（ゲレンデ中央付近に集合、停止させない）
- ⑪ 指導する場所の立木や建物の位置確認（衝突防止）
- ⑫ 安全に停止することができる場所の確認（ゲレンデの形状の確認 特に初心者指導の場合）
- ⑬ スキー教室実施について場内に周知することの依頼確認（場内放送・表示など）

### 【スキー教室当日の確認事項】

- ① 当日参加する児童生徒の健康状態の把握（健康観察の実施）
- ② 変更点の確認
- ③ 十分な準備運動の実施

## 3 スキー指導における留意事項

- ① 全ての班に学校の職員がつき、指導にあたること
- ② 指導者はあくまでも指導に徹すること
- ③ 指導のための話は簡潔にすること
- ④ 恐怖を感じさせる指導をしないこと
- ⑤ 楽しいスキーを最優先し、技術指導に偏らないこと
- ⑥ スキー技術を過信させないこと
- ⑦ 児童生徒がリフト乗車を求めてもスキー技術が不十分な場合は乗車させないこと
- ⑧ フリー滑走は絶対させないこと
- ⑨ 滑り出しから停止まで見通せる場所で行うこと
- ⑩ 複数の指導者がスタート地点と途中地点につき、可能な限り死角をなくすような指導者配置をとり、転倒や危険な状況に即対応できる体制をとること
- ⑪ ゲレンデ内に設置されている標識を確認させ、場内放送に留意させること
- ⑫ 滑り出し・進路変更・流入・横断は、上方からの滑走者を優先し、自分の周囲360度（上方・下方・背後）の安全を確認してから行わせること
- ⑬ 滑走中は、安全にコントロール（止まる・曲がる）できるスピードで滑らせること
- ⑭ 滑走中は、前方の滑走者との間に安全な距離を保ち、常に周囲の滑走者の動向を注視させること
- ⑮ 滑走コースに合流箇所がある場合は、その手前で必ず一時停止させること

## 4 スキー教室終了後の確認事項

スキー教室終了後、実施計画に沿った実施ができたか評価・振り返り・次年度に向けての改善等を行うこと（PDCA）

## 5 その他

スキー教室は、スキーのみならず、自然に親しむことができる内容を取り入れてもよい。自然とのかかわりの深い雪遊びなどの指導は、地域や学校の実態に応じて積極的に行うこと。

監修 水沢 利栄（福井大学教育学部 教授）  
（芸北小学校スキー事故検証委員会 副委員長）